

第2学年1組 国語科学習指導案

令和7年11月19日(水) 第5校時
活動場所 2年1組教室
児童数 30名
指導者 教諭 平原 知子

1 単元名 組み立てを考えて、お話を書こう 「お話のさくしやになろう」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童観

1学年の「どんなおはなしができるかな」では、絵から想像して友達と話し合い、それをもとに簡単なお話を考える学習を行った。

2学年では、6月に「こんなもの、見つけたよ」で、組み立て（「はじめ」「中」「おわり」の構成）について学び、学校や地域で見つけたものについて、簡単に報告する文章を書く学習を行った。組み立てのメモの段階から「はじめ」「中」「おわり」を意識させ、特に「中」では、何をどの順で書いたら伝えたいことが読み手に伝わる文章になるかを考えさせた。

9月の「書いたら見直そう」では、書いた文章の見直しの仕方を学び、推敲する視点に沿ってよりよい文章に直す学習を行った。しかし、日常的に自分の書いた文章を見直し、よりよい文章に直そうとする児童は多くない。誤字脱字がそのままになっていたり、主語と述語がねじれてしまったりすることがある。

「話すこと・書くこと」については、7月の「あったらいいな、こんなもの」の学習で、友達と質問をし合って、あったらいいなと思う道具について詳しく考えた。友達に質問してもらったり、一緒に考えたりすることで、自分一人で考えるよりもアイデアが膨らんだり、詳しく考えたりできることを経験した。

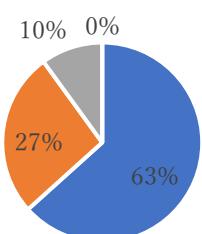
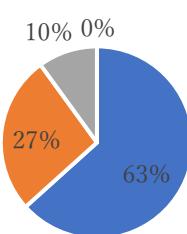
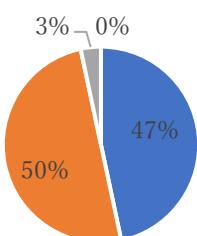
週に1度の図書の時間では、図書相談員による読み聞かせを続けてきた。児童は毎回2冊の本を読んでもらい、いろいろなジャンルのお話や季節折々のお話に触れてきた。また、1学期は2冊ずつ、2学期からは3冊ずつ本を借りりうることができるため、児童はこれまでにたくさんの本を読み、多くの児童が物語に親しんでいる。

9月に校内研修の学習アンケートを実施したところ、以下のような結果となった。

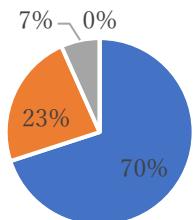
①学習するときに、単元のめあてがわかっていますか。

②学習を通して、自分が「何ができるようになったか」がわかりますか。

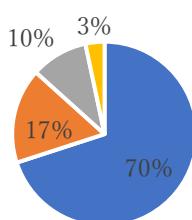
③学習を振り返り、「もっと知りたい」「もっとやりたい」と思いますか。



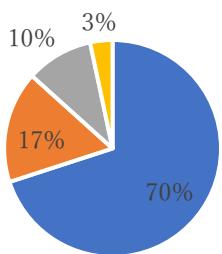
④ 授業のめあてに対し、どうやったらできるか、考えていますか。



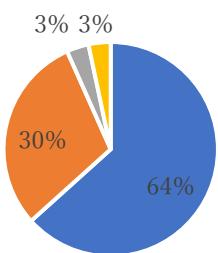
⑤ 友だちと話し合って、友達の考え方と同じところや違うところを見つけることができますか。



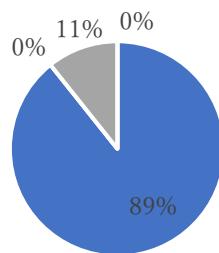
⑦ その時間の振り返りを書くときに、「ふりかえりのしてん」を意識していますか。



⑧ その時間の学習が、前の学習とどうつながっているか、意識していますか。



⑨ 友達と話し合う活動は好きですか。



■ 肯定

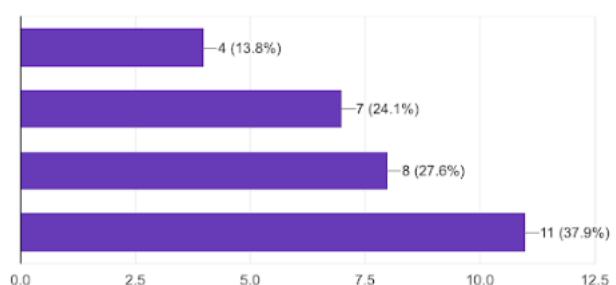
■ やや肯定

■ やや否定

■ 否定

⑦-2 ふりかえりを書くときに、特にどの視点を意識していますか。

- ① わかったこと・できたこと
- ② 新たな疑問
- ③ 今日の学びのつながり
- ④ 自分の成長の変化



「学習するときに単元のめあてが分かっていますか。」に対し、肯定的答を児童は、97%であった。また、「その時間の学習が、前の学習とどうつながっているかを意識していますか。」に対し、肯定的な答をした児童は、94%であった。これらの結果から、多くの児童が単元のめあてに向かって、前の学習とのつながりを意識しながら学習に取り組んでいることが明らかになった。

友達と話し合う活動については、89%の児童が好きであると回答した。その理由として、「自分の知らなかつたことを知れるかもしれない。」「新しくいろいろ知ることができる。」「それが参考になるかもしれないから。」「友だちの言ったことは、自分の知らなかつたことかもしれない。」「もっとアイデアが浮かぶから。」などが挙げられた。このこと

から、話し合いによって、自分の考えが広がったり深まったりするよさを児童が実感していると考えることができる。一方で、友達と話し合う活動を好きではないと回答した理由として、「話すのが苦手だから。」、「話し合うのが恥ずかしいから。」などが挙げられた。

「学習を振り返り、『もっと知りたい』『もっとやりたい』と思いますか。」に対し、肯定的回答をした児童は90%であった。多くの児童が意欲をもって次の学習につなげている一方で、次の学習につながる意欲をもつことができていない児童も一定数いることが明らかになった。

（2）教材観

本単元は、絵から想像したことをもとに書くことを決め、「はじめ」、「中」、「おわり」の構成を考えてお話を書くことをねらいとしている。自分が物語の作者になるという課題を設定することで、学習への意欲を高め、楽しみながら書く活動を行うことができると考えられる。

本単元は、教科書に「はじめ」と「おわり」のイラストが示されていて、「中」を自由に考えることができるようになっている。書くことへの抵抗感を減らし、楽しみながら書く学習を行えるよう、登場人物は教科書に示されているものを使用し、「中」だけを自由に考えることとする。イラストを参考に登場人物の人物像や名前を設定したり、どんな出来事が起こると読者に楽しんでもらえるかを考えたりすることを通して、自由にイメージを膨らませて書くことの楽しさを味わわせたい。

本単元のゴールとして、学年の友達や図書館に来た市民の方に読んでもらうという目的を設定した。読む相手を意識することで、想像したことをわかりやすく組み立て、言葉で表現する技能を意欲的に学ぶことができると考える。相手にわかりやすい文章にするにはどうしたらよいかを考えることを通して、構成をとらえながら主語と述語をはっきりさせること、句読点を適切につけること、一文が長すぎないようにすることなど、文章を書くときの基本的な技能を身につけさせたい。

（3）指導観

本単元では、絵から想像したことをもとに簡単な物語をつくるという言語活動を通して、「B 書くこと」の「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を指導する。物語の構成を考えて表現することは初めての学習内容であるため、既習の物語を想起させながら構成を振り返り、物語には「はじめ」「中」「おわり」の構成があること、それぞれに位置づけや内容の特徴があることに気づかせたい。

本単元では、「はじめ」と「おわり」のイラストが設定されている。「中」の出来事は、教科書に示されている4つのイラストから選んで想像を膨らませるか、自分で自由に考えるかを選べるようにする。想像を膨らませることが難しい児童は、4つのイラストに描かれている人物の表情や背景の様子を参考に出来事を考えるように声をかけることで、全員が想像する楽しさを味わえるようにする。自由に想像を膨らませたい児童には、イラストにない場面を自由に設定できることで、多様な発想を引き出し、物語の展開を広げることができるようとする。

「中」の出来事を自分で考える活動を行った後、自分の物語を友達と説明し合う活動

を設定する。友達と対話することで、次第に物語の内容が膨らみ、よりよい展開になっていくことが期待される。アンケート結果でも児童が友達との対話によって自分の考えが深まるよさを実感していることが明らかになったが、本単元でも感想や助言を生かしながら、互いの物語がプラスチックアップされていく楽しさを感じさせたい。友達との話し合い活動に苦手意識をもっている児童も話し合いに参加し、友達に助言や感想を伝えることができるよう、話し合いの視点を明確に示し、活用できるようにする。

友達との対話によって「中」の出来事が決まつたら、「はじめ」、「中」、「おわり」に分けて物語を書いていく。読む人にわかりやすく伝わるように、主語と述語をはっきりさせることを指導する。また、既習内容の「似た意味の言葉、反対の意味の言葉」の学習を想起させたり、「言葉の宝箱」を活用したりして、語彙を広げ、物語を豊かに表現できるように指導する。

物語が完成したら、クラスで読み合って感想を伝え合う活動を行い、その後、作品集としてまとめ、学年の友達と読み合ったり、図書館に置いてもらったりする。単元を通してこの目的を意識させることで、よりよい物語をつくりたいという意欲を高めていくようにしたい。

3 単元の目標

- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考え方を伝え合おうとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。

〈知識及び技能（1）力〉

- ・自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

〈思考力、判断力、表現力等B（1）イ〉

4 研究の視点

（1） 研究主題

「主体的に学び、互いのよさを認め、高め合う児童生徒の育成」
～自ら考え、広がる 高まる 深まる 授業づくり～

（2） 目指す児童像

○主体的に学び、互いのよさを認め、高め合うことができる子

（3） 研究仮説

【仮説1】

児童一人一人が見通しをもって取り組み、達成感を味わえるような単元を意図的に構成していくことで、「やりたい」意欲が向上するだろう。

手立て①

○相手意識の工夫

物語をつくった後は、クラスで1冊の作品集をつくり、同じ学習に取り組んだ他クラスの友達と読み合うこととする。また、本校の学社融合の特長を生かし、他クラスとの読み合いが終わった後は、作品集を遊学図書館に置いてもらい、図書館に来た市民の方にも読んでもらったり、感想をもらったりできるようにする。クラスや学校を超えた相手に読んでもらうという意識をもたせることで、よりよい物語をつくろうとする意欲の向上につなげたい。

手立て②

○振り返りシートの工夫

振り返りは、今までの学習の積み重ねを振り返ることができるよう、全時間1枚のワークシートに書き溜めていく。ワークシートには、単元の目標や単元の流れを載せ、学習の流れをつかめるようにする。振り返りの際は、その時間の学習を振り返るとともに、次の学習にどのようにつなげたいかを意識して書かせるようことで、見通しをもって学習できるようにするとともに、次の学習に意欲をもって臨めるようにしたい。

手立て③

○自己選択

お話の「中」を考える際に、教科書に載っている絵から想像を膨らませるか、自分で新しい場面を設定するかを選択できるようにする。より楽しくお話をつくる学習ができるのはどちらか自分で選ばせることで、意欲をもって書く学習に臨むことができると思う。

【仮説2】

自分の考えをもち他者と共有することで、対話的な学びに繋がり、自分の考えが広がり、高まり、深まることができるだろう。

手立て④

○学習形態の工夫

自分で物語の「中」の出来事を考えた後に、友達との交流の時間を設定し、考えをより深めさせる。友達に助言をするだけでなく、全員が助言を受けられるように、学力を考慮した3人組を意図的に編成する。

手立て⑤

○ワークシートの工夫

本時で使うワークシートは、「自分で考えたお話」、「友達のアドバイス」、「アドバイスを受けて付け足し・変更したお話」を分けて書くようにする。それぞれ書く欄を分けておくことで、自分の考えが友達との話し合いによってどのように深まったり、広がったりしたのかを、実感しやすくなることが期待できる。

また、友達のアドバイスは、付箋に書いてワークシートに貼ることとする。付箋は、動かして貼る順序や場所を変えることができるため、友達のアドバイスを受けて構成を再検討するときに、思考の整理がしやすくなると考える。

5 単元で取り上げる言語活動

- ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(言語活動例ウ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文の中における主語と述語との関係に気づいてい る。((1) 力)	「書くこと」において、自 分の思いや考えが明確になる ように、事柄の順序に沿って 簡単な構成を考えている。(B (1) イ)	事柄の順序に沿って粘り 強く構成を考え、学習課題 に沿って物語を書こうとし ている。

7 指導と評価の計画（全10時間扱い）

次	時	主な学習活動	○学習内容	・指導上の留意点 評価 [評価方法] ☆研究とのかかわり
第 1 次	1	①自分だったらど んなお話をした いかを考える。 ②単元の目標と学 習の流れを確か める。	○題材の設定 ○学習課題の 設定 ○学習の見通 し	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなお話を振り返り、どんなお話をつ くりたいか話し合せ、単元の学習へ意 欲をもたせる。 ・単元のゴールや流れを知らせ、見通しを もって学習に取り組めるようにする。 ☆手立て① 相手意識の工夫 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【主体的に学習に取り組む態度①】 〈評価方法〉 ワークシート・観察 ・お話を書くという学習の意欲と見通しをもっている。 </div>
第 2 次	2 ・ 3 ・ 4	①これまで学習し た物語を振り返 り、「はじめ」 「中」「おわり」 の構成をとらえ る。 ②これまで学習し た物語の登場人 物を振り返る。	○情報の収 集 ○物語の構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した物語を振り返らせ、 どんな構成になっているかを考えさせ る。物語は、「はじめ」、「中」、「おわり」 の構成になっていること、それぞれに位 置づけや内容の特徴があることに気づ かせる。 ・登場人物の人物像が展開や終末に生かさ れていること、それが物語のおもしろさ につながっていることに気づかせる。

	<p>③教科書のイラストをもとに、登場人物の人物像や名前を考える。</p> <p>④物語の「はじめ」と「おわり」を考える。</p> <p>⑤「中」の出来事を考える。</p>	<p>○登場人物の人物像の設定の仕方</p> <p>○内容の検討(登場人物の人物像、「中」の出来事)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のイラストを参考に自由に考えさせ、発想を豊かに引き出す。 物語は木の実を探しに行くことから始まり、最後には木の実を持って帰ってきて終わることを確認する。 主人公の人物像を生かして「中」の出来事を考えられるように助言する。 <p>☆手立て③自己選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 後で組み立てを検討しやすいように、ワークシートにメモ書きさせる。 <p>☆手立て⑤ワークシートの工夫</p>
<p>【思考・判断・表現①】</p> <p>〈評価方法〉 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 			<p>【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>〈評価方法〉 ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って物語を書こうとしている。
5 本時	<p>⑥自分が考えたお話を友達と説明し合い、感想や助言をもとに物語を膨らませる。</p>	<p>○文章の構成</p> <p>○構成の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感想や助言は付箋に書かせ、あとでじっくりと考えて再検討に生かせるようにする。 <p>☆手立て⑤ ワークシートの工夫</p> <p>☆手立て④ 学習形態の工夫</p>
<p>【知識・技能①】</p> <p>〈評価方法〉 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 文の中における主語と述語との関係に気づいている。 			
6 7 8	<p>⑦出来事の様子が詳しくなるよう、誰が何をしたのかわかるようにしたり、言葉を選んだりして、お話を書く。</p>	<p>○下書きの書き方</p> <p>○主語と述語</p> <p>○会話の書き方</p> <p>○語彙の選択</p> <p>○清書の書き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「お話のれい」を参考に、「はじめ」、「中」、「おわり」は、それぞれどのように書いていくとよいかを考えさせる。 「はじめ」から「おわり」に向けて順序に沿って書くように指導する。 物語を詳しくするために、会話文を書くことを意識させる。 主語と述語をはっきりさせて書くことを指導する。 「似た意味の言葉、反対の意味の言葉」の学習を想起させたり、「言葉の宝箱」を活用させたりして、語彙を広げ、物語

				を豊かに表現できるようにする。
				<p>【知識・技能①】 〈評価方法〉 ワークシート • 文の中における主語と述語との関係に気づいている。</p>
	⑧考えたお話にぴったりの題名を考える。	○題名のつけ方		<ul style="list-style-type: none"> 「スイミー」「お手紙」「ミリーのすてきなぼうし」など、いくつかの例を挙げ、題名を考える参考にさせる。
9	⑨書いたお話を読み返し、わかりにくいところや間違いがないか確かめる。	○推敲の仕方		<ul style="list-style-type: none"> 推敲の目的やポイントを示し、読者が読みやすいかを意識させて推敲させる。
第3次	⑩友達と書いたお話を読み合って感想を伝え合い、学習をまとめる。	○共有・交流 ○振り返り		<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさを認め合う感想を述べるようにする。 単元の学びを振り返り、単元を通して身につけた力が実感できるようにする。 <p>☆手立て②振り返りシートの工夫</p>
<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 〈評価方法〉 ワークシート・観察 • 進んで友達が書いた物語を読み、よいところを見つけて感想を伝えようとしている。</p>				

8 本時の学習指導 (5/10 時)

(1) 目標

- 考えた物語の構成を友達と交流し、助言し合ってよりよいものにすることができる。
 〈思考力、判断力、表現力等B (1) イ〉

(2) 評価規準

- 「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構想を考えている。
 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	○学習内容	・指導上の留意点 評価 [評価方法] ☆研究とのかかわり	時間
1 単元のゴールと本時の学習のめあてを確認する。	○単元のゴールの確認 ○本時のめあての確認	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習が、単元のゴールにどうつながるかを意識させる。 振り返りワークシートを活用し、前時とのつながりを意識して本時の学習を始められるようにする。 <p>☆手立て② 振り返りシートの工夫</p>	2

<p>友達と話し合って、 お話ししよう。</p>			
2 教師の作成した物語をモデルに、話し合いの仕方を確認する。	○話し合いの仕方	<ul style="list-style-type: none"> 「中」の出来事の深まり、会話、「はじめ」と「おわり」のつながり、登場人物の設定を「中」や「おわり」に生かすこと等、よりよいお話にする視点に気づけるように、教師のつくった物語について児童に助言を言わせる。 	7
3 考えた物語を友達と説明し合い、感想や助言を伝え合う。	○構成の検討 <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の人物像 「中」の出来事 「はじめ」と「おわり」の整合性 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを肯定的に捉え、温かい雰囲気で助言し合える雰囲気をつくる。 友達に助言をするだけでなく、全員が助言や感想を受けることができるよう、3人組での話し合いとする。 <p>☆手立て④ 学習形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員の物語について十分に話し合えるよう、1人7分間程度の話し合いとする。 友達への助言や、助言を受けて加除修正しようと思ったことは付箋に書かせ、後から情報の取捨選択・思考の整理がしやすいようにする。 <p>☆手立て⑤ ワークシートの工夫</p>	22
4 助言や感想を受けて新たに物語の構成を考える。	○構成の再検討	<ul style="list-style-type: none"> 友達の感想や助言をもとに、新たに考えたことを書き足したり、修正したりしながら、物語を膨らませるようにする。 加筆修正している過程で、何を書けばよいかわからなくなってしまった場合は、もう一度友達に相談してよいこととする。 <p>☆手立て⑤ワークシートの工夫</p>	9

〈評価規準〉【思考・判断・表現】

〈評価方法〉ワークシート・観察

- 友達から受けた助言や、対話を通して考えたことをもとに構成を再検討し、物語の出来事や人物像の設定などが詳しくなった児童をB評価とする。
- 〈状況(C)への手立て〉

友達からもらった助言の付箋を一緒に整理したり、再度イラストの人物や背景に注目させたりして、自分で考えたお話より1つでも詳しく記述できるように支援する。

5 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	○本時の振り返り ○次時の見通し	・本時の学習を振り返るとともに、次の学習にどのようにつなげたいかを意識して振り返りを書かせるようする。 ☆手立て② 振り返りシートの工夫 ・何人かの振り返りを紹介し、次時への期待感をもたせる。	5
----------------------------	---------------------	--	---

9 板書計画

○友だちの考えたお話を聞いたときは ・「いいな」と思ったところを言う。 ・こうしたらもっとおもしろくなりそうだ うだと思うことを言う。	○話しかけた ・しゃじんこうは、歌が すきだから、歌を歌つ て帰る ・とちゅうでたすけてくれ るだれかに出会う ・たすけてくれた人とな かよくなる ・さいしょにケーきをつく ろうとしていたから、 おわりでケーきがかん せいする	教師のお話の例 ・お話を書こう。	お話をさくしやになろう めともだちと話しあって、 お話を書こう。
--	--	---------------------	--

10 資料

(1) 振り返りシート

6 組み立てをもとに お話を書こう。	5 もっと お話を 書こう。	4 ともだちと話し合 い。 考え方。	3 「中」のできがいき お話のどうじょうじん わり」を考えよう。	2 ぶつ、「はじめ」と「お う。	1 これまでに学しゅうし たお話をふりかえろ う。	めあて どんな学しゅうをす るのか、見とおしをも う。
5じかんめのふりかえり	6じかんめのふりかえり	7じかんめのふりかえり	8じかんめのふりかえり	9じかんめのふりかえり	10じかんめのふりかえり	◎△ ふりかえり
お話を書こう。	お話を書こう。	お話を書こう。	お話を書こう。	お話を書こう。	お話を書こう。	お話を書こう。

◎図書かんに来た人に楽しく読んでもらえる
お話をさくしやになろう「ふりかえり① [名前] ()

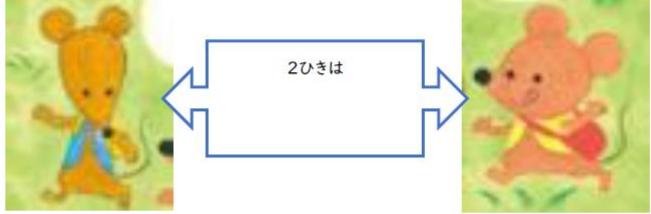
10	書いたお話を読み合つ てかんそうをつたえ、 学しゅうをふりかえ ろう。	9	書いたお話を読みか えして、せいしょし う。	8	書いたお話を読みか えして、せいしょし う。	7	だれが何をしたのか 分かるようにして、 組み立てをもとに お話を書こう。	6	だれが何をしたのか 分かるようにして、 組み立てをもとに お話を書こう。	めあて
10じかんめ・ たんげんのふりかえり	9じかんめのふりかえり	8じかんめのふりかえり	7じかんめのふりかえり	6じかんめのふりかえり	◎○△	ふりかえり	お話を書こう。	名前()	お話をのさくしやになろう【ふりかえり②】	

(2) 2時間目ワークシート

はじめ	はじめ	終わり	中	どうじょうじんぶつ	「スイミー」
じんぶつのへぶつ とうじょう	おわり	中	はじめ	どうじょうじんぶつ	「」
				どうじょうじんぶつ	終わり
				どうじょうじんぶつ	はじめ
					今までに学しゅうした お話を ふりかえろう。
					名前()
					お話をのさくしやになろう①

◆「はじめ」、「中」、「おわり」は、それぞれどうよくなことが書かれているか、まとめてましょう。

(3) 3時間目ワークシート

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>れい</p> <p>はじめ</p> <p>□どうじょうじんづ □木のみをさがしにいく ねずたが、木のみをさがしに行きました。 歌が大ききな「ちう子」と、木のぼりがじょうずな</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;">  </td> </tr> </table>	<p>れい</p> <p>はじめ</p> <p>□どうじょうじんづ □木のみをさがしにいく ねずたが、木のみをさがしに行きました。 歌が大ききな「ちう子」と、木のぼりがじょうずな</p>		 <p>2ひきは</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px; text-align: center;"> <p>名前</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px; text-align: center;"> <p>名前</p> </td> </tr> </table>	<p>名前</p>	<p>名前</p>
<p>れい</p> <p>はじめ</p> <p>□どうじょうじんづ □木のみをさがしにいく ねずたが、木のみをさがしに行きました。 歌が大ききな「ちう子」と、木のぼりがじょうずな</p>						
<p>名前</p>	<p>名前</p>					

めあて

お話のどうじょうじんづ、「はじめ」と「おわり」を考えよう。

お話のさくしやになろう②

名前 ()

(4) 4・5時間目ワークシート (本時使用)

つけたし・へんこう	ともだちのアドバイス	中①	つけたし・へんこう	友だちのアドバイス	はじめ
-----------	------------	----	-----------	-----------	-----

お話のさくしやになろう③ーー

名前 ()

つけたし・へんこう	ともだちのアドバイス	中③

つけたし・へんこう	ともだちのアドバイス	中②

つけたし・へんこう	友だちのアドバイス	おわり

つけたし・へんこう	ともだちのアドバイス	中④

